

立憲と共産が党首会談

政権枠組み初の合意

あいまいさ残るも折り合い

立憲民主党と共産党が9月30日の党首会談で、立憲が衆院選で政権を取った場合、「限定期的な閣外からの協力」をめざすことで一致した。「野党共闘」で選挙後の政権の枠組みに関する、野党第一党と共産が合意して戦うのは初めて。ただ、両者の恩怨の辺りもあり、あいまいな表現で折り合った面もあるようだ。

▼2面参照

「新政権において市民連合（安保法廃止と立憲主義の回復を求める市民連合）と合意した政策を着実に推進するために協力する」。この日、国会内であつた党首会談で、立憲の枝野幸男代表が「政策を実現する範囲での限定期的な閣外からの協力を」を提案した。

枝野氏は衆院選での選挙協力についても、「すみ分け」から「直営で候補者を一本化した選挙区について、双方の立場や事情の違いを互いに理解、尊重しながら、小選挙区での勝利をめざす」と踏み込んだ。

共産の志位和夫委員長は「枝野代表の決断に敬意を表する。市民と野党の共闘を大いに発展させる画期的な内容になった」と感じた。自民党の総裁が交代したばかりの10月4日の首相指名選舉でも、枝野氏に投票するとのことで一致した。菅義偉首相の退陣で自民党の支持率が上昇する中、

立憲が衆院選を戦ううえで野党候補の一本化は必須だが、調整で譲歩を迫られかねない共産から条件が示されていた。志位氏は4月27日の党首会談で「対等平等、相互尊重が大事」と強調。共通政策と政権のあり方、選挙協力の3点で合意するよう求めたのだ。

9月8日と市田運営会を介して「共通政策」はクリアしたが、最後の宿題として残つたのが、政権の枠組みだった。日米安保条約や天皇制に対する考え方が異なり、支持団体の連合にも異論が強かつた。

枝野氏は今年6月、連合会長との会談後、「共産党との関係は、理念に違つていて折り合った形だ。ただ、「限定期的な閣外からの協力」にはあいまいさも残る。具体的なイメージを問われた枝野氏は「まあに文字通りの合意をさせていただじたところ」だと述べると認めめた。

立憲幹部の一人は「与党でも野党でもない」としつつも安倍、菅政権の重要な法案に協力してきた日本維新の会を例に挙げ、「維新的もっとどちらんとしたバージョンみたいなものだ」と解説した。

- 国民党・立憲民主党・社民党
- ・「連合」を介した政策協定
- ・選挙協力の覚書
- ・「市民連合」と共通政策合意
- ・首相指名選挙で立憲・枝野幸男代表を推すことで一致

立憲民主党の枝野幸男代表(右から2人目)など野党4党の党首



いる部分があるので連立政権は考えていない」と記者に語った。

立憲の赤松広隆衆院副議長も志位氏らと会談を重ね、「共産がどうしても賛成できな」法案もある。

『連立与党』ではなく『協力勢力』になり、納得でき

ない法案は党の理念から反対することもあっていい

などと説得。両党幹部が調整し、「限定期的」「から

の」という言葉を盛り込んで折り合った形だ。

ただ、「限定期的な閣外からの協力」にはあいまいさも残る。具体的なイメージを問われた枝野氏は「まあに文字通りの合意をさせていただじたところ」だと述べると認めめた。

立憲幹部の一人は「与党でも野党でもない」としつつも安倍、菅政権の重要な法案に協力してきた日本維

新の会を例に挙げ、「維新的もっとどちらんとしたバージョンみたいなものだ」と解説した。